

(別紙1)

令和6年度 実績報告書

(1) 事業名	過疎地域での町並み保存と空き家対策などの課題解決
(2) 実施期間	実施期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日
(3) 事業目的、背景	<p>(事業の目的) 過疎地域でのまちなみ保存と建物の利活用を通じた地域活性化</p> <p>(事業の背景) 当協議会では、呼子地区の重伝建（重要伝統的建造物群保存地区）選定を目標とし、その後のまちなみ保存と建物の利活用を通じ、地域の活性化を目指している。</p> <p>(本事業で解決を目指す地域課題) 町並み保存の支援、空き家の利活用、拠点施設の整備</p>
(4) 事業内容 ※できるだけ具体的に 記載してください。 ※事業内容を示すフロー 図等があれば添付可	<p>(事業の概要)</p> <p>① 空き家情報・定住促進・不動産情報のサポート</p> <p>◎空き家情報→5軒（空き家の問い合わせに対して情報提供及び内覧同行）</p> <p>◎定住促進→0軒</p> <p>◎不動産情報のサポート→3件（不動産情報登録の無かった空き家を登録へ、空地の情報提供）</p> <p>② まちなみ保存の意識啓発</p> <p>◎先進地視察（5軒）</p> <p>(1) 5/28 佐賀県有田地区→協議会参加者10名（市と合同）</p> <p>(2) 7/8 佐賀県鹿島地区→協議会参加者2名（〃）</p> <p>(3) 8/20 長崎県的大島神浦地区→協議会参加者14名（〃）</p> <p>(4) 1/28, 29 宮崎県美々津地区→協議会参加者10名（〃）</p> <p>(5) 2/8 福岡県八女市福島地区→協議会参加者15名（〃）</p> <p>◎幟旗の設置 町内53か所（2025/3月末現在）</p> <p>◎市文化祭での掲示 11/16, 17 重伝建を解説する掲示物の展示</p>

◎活動報告会開催

3/8 連携している福大鈴木ゼミと協議会の合同で 2024 年度の一年間活動してきた内容を、協議会の構成員や一般住民に参加してもらい報告する会を開催。参加者約 50 名。

◎まちなみ記録 写真撮影

2024 年度中、随時
取組みを進めても解体が進むケースもあり、現状でのまちなみを記録していく

③ 重伝建選定へのサポート

◎市教委と協議会の情報交換会～R6. 10. 9～

④ 町並み保存のためのサポート体制の強化

◎サポート体制組織化について検討作業中、令和六年度中には組織化に至らず。

⑤ 呼子および周辺地域を対象とした大学等による調査研究のサポート

◎福岡大学商学部鈴木研究室への業務委託

委託業務名：呼子まちなみ保存活動業務

<取組み概要>

- (1) 呼子について SNS での発信 (2024 年度インスタグラム投稿数 15 件)
- (2) 呼子マルシェ・呼子ナイトマルシェ出店 (2024 年度 6 回出店)
- (3) 学生観光ビジネスプランコンテスト

[行事・作業参加]

2024/6/2 『呼子大綱引き』参加 29 名
2024/10/6 古民家・神社清掃活動参加 13 名
2024/11/9, 10 『呼子くんち』参加 9 日 20 名、10 日 20 名
2025/3/8 『令和六年度港町呼子まちなみ保存協議会 活動報告会』
参加 8 名

(実施地域)

呼子町とその周辺地域

(主な受益者・人数)

4000 人

<p>(5) 事業効果</p>	<p>(事業効果及び県民が受けた便益)</p> <p>過疎化が進み、保存すべき古民家が解体の危機にさらされることや、住環境の悪化などが懸念される状況であるが、それらを解消する手立てとして期待されるのが「重伝建（重要伝統的建造物群保存地区）」制度に選定されることである。</p> <p>重伝建の選定のためには、まず地域住民への啓発活動が不可欠であり、そのためにすでに重伝建に選定されている先進地域の視察を5件実施した。</p> <p>それにより、『重伝建地区に選定されることがどういう意味を持つのか』『選定されることにより地域にどういった効果がもたらされるのか』について、実際の事例を見ながら視察参加者に認識してもらうことができた。</p> <p>また、視察に加えて町の文化祭などの行事の際に資料を掲出したり、重伝建制度をアピールする幟旗を町の随所に立てることにより、幅広い年齢層の住民に制度について理解を深めてもらう効果があった。</p> <p>令和7年3月には活動報告会を開催し、ここでは連携している福岡大学鈴木研究室と住民との意見交換も行うことができた。住民は専門家や研究室の学生と直接交流することにより、地域における伝統的建造物の文化財保護や活用についての理解を深めることができた。</p> <p>このような一連の取り組みは、地域住民の意識改革を促し、地域資源の保護と活用の重要性について共通の理解を深めるための大きなステップとなった。特に、住民自らが専門的な知識を持つ人々と意見を交わすことによって、文化財としての歴史的建造物の保護が単なる「守る」行為にとどまらず、地域の発展と融合するための手段であることを実感することができた。</p> <p>結果として、この活動を通じて地域全体が一体となり、文化財を守りつつ地域を発展させるための土台が築かれたことがうかがえる。</p> <p>(効果が及んだ地域)</p> <p>重伝建選定を目指している呼子地区</p>
<p>(6) 連携先・連携内容 (県、市町、企業、団体等)</p>	<p>連携した団体及び連携内容</p> <p>NPO 法人 からつヘリテージ機構</p> <p>建築士による建物についての専門的な知見によるサポート。</p> <p>福岡大学商学部 鈴木裕介教授研究室</p> <p>地域研究として中長期での調査とまちづくりへの関与。</p>

※記載欄が不足する場合には、適宜、欄を拡大してください。